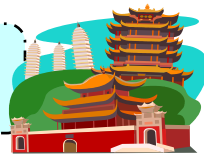




～品川史跡めぐり～



平塚の碑

平安時代中期（11世紀後半）、「後三年の役」（出羽の豪族、清原氏の内紛）の際、兄の源義家を助けてこれを平定した新羅三郎 源義光は、出羽からの帰途、この辺りで野営をしたが、その夜盗賊の襲撃を受けて多くの将兵を失った。付近の村民は、亡くなった人々を懇ろに葬り、広さ10坪（約33平方メートル）ほどの塚を築いた。その後、この塚も次第に忘れ去られていたが、太平洋戦争のあと、このあたりを整地したとき、鎧や兜、刀剣などがたくさん発掘された。同じころ付近に住む人々がしばしば不吉なことに会うので、義光のたたりではないか、という声が出て、地元有志の手でこの碑が建てられた。昭和33年（1958）からは、毎年5月に慰霊祭が行われている。



～地名の由来～



その名の由来をひもとけば、街は古の姿を現し
私たちは積み重ねた時の落葉の上になつことを知る

シリーズで区内の地名を紹介しています

《関ヶ原（せきがはら）》

町の中心を南北に流れる立会川の川筋に水車の堰が作られ、開拓された水田に水を送っていたことからこのあたりのことを堰ヶ原と呼ぶようになり、「堰」が「関」に変わった。

《鈴ヶ森（すずがもり）》

盤井神社に鈴石とよばれる石があり、社の森を鈴の森あるいは鈴ヶ森とよんでいた。慶安4年（1651）に獄門場が設置された。

《寺の下（てらのした）》

現在の南大井5丁目のあたり。万福寺が承応2年（1654）に馬込に移るまでこの近くにあったのでこう名づけられたという。